

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00924

研究課題名（和文）日ソ戦争および戦後の引揚・抑留に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive study of the war between Japan and the USSR including repatriation and internment,

研究代表者

白木沢 旭児（Shirakizawa, Asahiko）

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：10206287

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 27,600,000 円

研究成果の概要（和文）：1945年8月に行われた日ソ戦争については、満洲における関東軍の戦闘と樺太におけるソ連軍の作戦が解明された。関東軍は居留民を保護しなかったのみならず、兵士も見殺しにしたのである。満洲国軍とモンゴル軍の果たした役割についても明らかにされた。

抑留については、ソ連側資料の活用が進み、女性の抑留の事例および政治犯とされた事例が明らかになった。引揚については、函館引揚援護局などの日本政府の引揚者に対する措置が明らかにされた。また、ソ連占領下における日本人の処遇についても解明が進んだ。ソ連領サハリンに残った日本人がいたことは重要な意味をもつ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日ソ戦争は、日本から見ると、侵略された戦争である。他方、ソ連・ロシアでは解放戦争という歴史認識が続いている。日ソ戦争の事実を明らかにすることにより、日ソ間の歴史認識の溝を埋めることに寄与することができる。また、中国・朝鮮において日本人を襲撃する現地住民もいたが、逃避行中の日本人を助けている現地住民もいたことがわかった。本研究は近隣諸国との関係史として重要な意義をもつものである。

研究成果の概要（英文）：Regarding the war between Japan and the USSR in August 1945, we examined how the battle in Manchuria proceeded. In addition, we analyzed Soviet military strategy in Karafuto. We found that the Kwantung Army let its soldiers die in vain and failed to protect settlers. We also investigated the role of the Manchukuo Imperial Army and the Mongolian military in this war.

Concerning the Siberian Internment, using Soviet documents, we shed light on female internees and internees charged with political crimes. About repatriation, we clarified measures taken by the Japanese government, including at the Hakodate Regional Repatriation Centre. Furthermore, we examined Soviet treatment of Japanese people in Karafuto, emphasizing the import of those Japanese who remained living in Sakhalin after it became the territory of the Soviet Union.

研究分野：日本史学

キーワード：日ソ戦争 樺太 満洲 引揚 抑留

1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦最終盤にソ連が日本に宣戦布告し(1945年8月8日)樺太、千島、満洲、朝鮮、内モンゴルを舞台に戦闘が行われた。この戦闘は8月下旬、日本軍の武装解除により停戦にいたっている。(ちなみにソ連側の公式の「終戦」は9月2日)本研究では、ソ連による宣戦布告から9月2日の公式「終戦」までの1945年の戦争を「日ソ戦争」と称することにしている。しかし、この戦闘の結果、約60万人もの日本人がソ連およびソ連支配地域に抑留され、抑留からの最後の帰還は1956年12月のこととされている。

日ソ戦争は、日本の歴史学界ではこれまでほとんど認知されておらず、日本近現代史の通史のなかでもふれるものは少なかったが、近年、樺太史研究の隆盛や戦後引揚への関心の高まりによって、通史のなかでも日ソ戦争が正当に扱われるようになってきた(加藤聖文『「大日本帝国」崩壊：東アジアの1945年』中央公論新社(中公新書)2009年)。シベリア抑留も、日本の歴史学界において長きにわたって等閑に付されたテーマであった。その要因として日本の戦後歴史学において社会主義国・ソ連は、ファシズム、帝国主義に反対する勢力として位置付けられていたために、反ファシズム・反帝国主義たるソ連の事績として、たとえばバルト三国の併合、ソ・フィン戦争などと並んで明確に国際法違反であるシベリア抑留は研究テーマとして取りあげることがはばかられたのではないだろうか。しかし、社会主義体制の崩壊、帝国主義論の終焉と新たな帝国論の隆盛は、社会主義国ソ連を帝国として認識することを可能にした。現在では、国内の社会主義建設も対日戦争とその後の抑留もすべて社会主義国ソ連の事績として客観的に叙述することが可能になったといえるだろう。

2. 研究の目的

本研究は、日ソ戦争(1945年8月)の実態を、戦場となった樺太、千島、満洲等について戦闘の過程および兵士・民間人の置かれた状況について実証的に明らかにするとともに上記地域に加えてモンゴル、朝鮮をも含むソ連統治地域の実態、さらには戦後長く継続されるシベリア抑留の実態を明らかにするものである。方法としては、外交史・政治史研究のさらなる精緻化をめざすとともに、日ソ戦争およびシベリア抑留体験者のさまざまな記録・記憶を研究対象とし、日ソ両国において資料収集・体験記録収集を行うものである。とりわけ、従来の戦争史(政治史・外交史からなる)の範疇を超える新しい戦争史を描くことを目指している。以下、本科研の3つの視角を説明する。

<歴史研究者は戦争史を書くことができたか>

日本近現代史の日中戦争や太平洋戦争をテーマとする研究書あるいは通史の索引を見ると、掲載されている人名の多くは政治家と軍人である。しかし、そのなかの多くの者は戦争には行かず東京に在住して毎日役所に勤務していた。歴史研究者は外交文書や政治家・軍人の日記などを重視して戦争史を書いてきたが、それは戦争そのものの歴史ではなく「戦争中の政治外交史」であった。日ソ戦争史が書かれなかった最大の要因は、日ソ戦争中の外交の欠如であろう。本科研は、同書の達成した研究成果を踏まえて、さらに戦争の実態、戦場の実態を明らかにすることをめざしている。日ソ戦争の現場にいた人々の手記・回想にこだわるのはこのためである。

<北東アジアからみたグローバル・ヒストリー>

日ソ戦争を研究するということは、一国的研究方法では不可能である。また、単に日本とソ連の戦争という二国間関係に分析対象を限定することも正しくない。なぜならば、日ソ戦争の戦場は、日本本国(千島)、日本の公式植民地(樺太、朝鮮)、中国(「満洲国」、「蒙疆政権」支配地域)であり、とりわけ中国の国土が戦場になったことに注目するからである。抑留の舞台としてはモンゴルも加わり、北東アジア全域が日ソ戦争の舞台となっていたのである。換言すれば、日ソ戦争の研究は北東アジアにおける第二次世界大戦史研究であり、グローバル・ヒストリーとして取り組まなければならないのである。

<日本帝国の崩壊>

日本帝国は太平洋戦争によりアメリカに敗北したことによって崩壊した、と考えられている。しかし、アメリカが日本の支配地域を奪回したのは、南洋群島と朝鮮半島南部のみであり、太平洋上の多くの戦場やフィリピン、東南アジア諸地域は、一時的に日本が占領したものであり、日本帝国の構成要素とはみなせない。日本帝国を構成する樺太、朝鮮半島北部、中国東北、内蒙古はソ連軍によって奪回された。つまり、日本帝国を直接瓦解に導いたのはアメリカではなくソ連である。本科研は、日本帝国の崩壊過程を実証的に明らかにする、という意味をも有している。

3. 研究の方法

平成29年度から4年間で日本国内をはじめとしてロシア、モンゴル、中国の資料所蔵機関を調査し、公文書、一次史料の収集に努める。元兵士、引揚者により書かれた手記・回想類を悉皆的に調査しデータベース化する。日ソ戦争体験者、抑留体験者からのインタビュー調査を行い、音声記録を集積する。ロシア人研究者との協力のもとにロシア語資料、ロシア語文献の翻訳を行う。こうした研究の成果を本研究期間終了後に研究書および一般向けの啓蒙書のかたちで世に問うことを予定している。

4. 研究成果

<平成 29 (2017) 年度>

日ソ戦争過程については、日ソ双方の資料調査を踏まえて、加藤聖文「ソ連軍の満洲進攻と関東軍」、ヤロスラフ・シュラトフ“Rescued in Siberia: The US Airmen at the Soviet Far East”、などの学会発表が行われた。また井潤裕は『ロシア革命とソ連の世紀第2巻』に「日ソ戦争」を寄稿し、兎内勇津流は「第二次世界大戦期サハリン周辺海域の航行問題」を『ロシア史研究』に掲載した。浅野豊美は、「引揚げ文学論の可能性と意義：帝国史とトランスナショナル・ヒストリーの視点から」を『立命館言語文化研究』に掲載した。研究協力者の生田美智子は、ロシア・ハバロフスクにて「抑留された女たち：満洲からシベリアへ」(第33回日露極東学術シンポジウム)を公表し、『軍事史学』に「もう一つのシベリア抑留 女たちのシベリア抑留」を掲載した。もう一人の研究協力者である原暉之は、天野尚樹と共に『樺太四〇年の歴史：四〇万人の故郷』(全国樺太連盟)を刊行し、北樺太保障占領および1945年の日ソ戦争についても最新の研究成果を反映した叙述がなされた。

冷戦体制への移行過程についてはヤロスラフ・シュラトフ“*The Khabarovsk Trials of 1949 and the Cold War Diplomacy*”、湯浅剛「ユーラシア国際関係におけるエネルギー・ファクター」などの学会発表を行った。

<平成 30 (2018) 年度>

日本植民地研究会第26回全国研究大会では、共通論題として本科研メンバーを中心に「日本帝国の崩壊とソ連による占領」(コーディネーター：白木沢旭児)が企画され、内藤隆夫「朝鮮北部におけるソ連進駐 日本窒素肥料(興南)の事例を中心に」、兎内勇津流「ロシア・ソ連の史料・文献に見るソ連の南サハリン統治(1945-1950)」、荒井幸康「モンゴルにおける日本人抑留」が報告され、浅野豊美、加藤聖文がコメントーターを務めた。これまで、日ソ戦争史のなかでも光が当てられていなかった、北部朝鮮、戦後サハリン、モンゴルについて、新資料も紹介しながら最新の研究状況が明らかとなった。

また、北海道大学が刊行する『北方人文研究』第12号には、ジョナサン・ブルの“*Karafuto Repatriates and the Work of the Hakodate Regional Repatriation Centre, 1945-50*”の邦訳(白木沢旭児)「樺太引揚と函館引揚援護局の役割 1945-50」および、セルゲイ・クズネツォフによるロシア語研究報告の邦訳(兎内勇津流)「モンゴルにおける日本人抑留者 1945-1947年」を掲載することができた。

このほか、戦後の日本人残留者の問題を研究してきた中山大將が、その成果を単著『サハリン残留日本人と戦後日本：樺太住民の境界地域史』として上梓することができた。

<平成 31・令和元 (2019) 年度>

科研メンバーは、国内では及川琢英『帝国日本の大陸政策と満洲国軍』(吉川弘文館)、加藤聖文『満鉄全史』(講談社)、小都晶子『「満洲国」の日本人移民政策』(汲古書院)、中山大將『国境は誰のためにある？：境界地域サハリン・樺太』(清水書院)といった単著を刊行した。海外では、ヤロスラフ・シュラトフが、*A History of Russo-Japanese Relations: Over Two Centuries of Cooperation and Competition*, Dmitri V. Streltsov, and Shimotomai Nobuo (eds.)の重要な部分を執筆している。

また、『社会経済史学』に三木理史「「満洲国」期における満鉄旅客輸送」が掲載され、黒岩幸子により『北海道立文書館所蔵 戦後千島関連資料』全4巻が刊行されたことも重要な成果である。

<令和 2 (2020) 年度>

本科研の研究協力者である富田武が、『日ソ戦争 1945年8月 - 棄てられた兵士と居留民 -』(みすず書房)を刊行した。「日ソ戦争」を表題に掲げ、満洲、朝鮮、樺太、モンゴルなどの主要な戦線について包括的に分析した画期的な研究書である。また、もう一人の研究協力者である花田智之は『防衛研究所紀要』に「ソ連軍指導部の対日認識について 第二次世界大戦期を中心に」を、『法学志林』に「日本の終戦とソ連の対日参戦 大国間外交の終焉」を公表した。もう一つの特筆すべき業績として、加藤聖文『海外引揚げの研究 忘却された「大日本帝国」』(岩波書店)がある。同書は、満洲、朝鮮、樺太などソ連支配地域からの日本人引揚げ問題についても詳述していることが特徴である。

また、本科研が、当初掲げたロシア側の研究の翻訳を刊行することについては、N・ヴィシネフスキー著、小山内道子訳、白木沢旭児解説『樺太における日ソ戦争の終結 知取協定』(御茶の水書房)として実現した。

このほか、中山大將がサハリンからの中華民国人の帰国について韓国の国際シンポジウムで、田淵陽子が「国民投票 1945 - 史料と研究 - 国際学術シンポジウム」(モンゴル国科学アカデミー、中央アルヒーフ主催)にて、天野尚樹が“*Northeast Asia: Pitfalls and Prospects, Past and Present*”(北海道大学)にて口頭報告を行った。

この4年間に、日本の歴史学界において「日ソ戦争」およびこれに関連する事項がテーマとして取り上げられることが多くなった。これは、本科研メンバーの地道な研究の結果でもある。現在、本科研メンバーによる共同研究の成果を著書として出版するための準備をしているところである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 中山大将	4. 巻 10
2. 論文標題 日ソ戦後の在南サハリン中華民国人の帰国：境界変動による樺太華僑の不本意な移動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 境界研究	6. 最初と最後の頁 45-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野尚樹	4. 巻 97
2. 論文標題 書評：ニコライ・ヴィシネフスキー著『知取協定』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 123-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 105
2. 論文標題 ヴァシーリー・ボルディレフと日本：一九一九年滞日期を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 104
2. 論文標題 パネル「新史料から見直すシベリア出兵」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 84-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木理史	4. 巻 44
2. 論文標題 海を渡ろうとした大阪地下鉄 - 「満洲国」奉天市の地下鉄計画 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市と公共交通	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木理史	4. 巻 23-1
2. 論文標題 南満洲鉄道における小単位旅客輸送 通学と「動車」の運行の関連を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 技術と文明	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木理史	4. 巻 32
2. 論文標題 南満洲鉄道における鉄道輸送の研究動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒岩幸子	4. 巻 41
2. 論文標題 北海道立文書館所蔵の『戦後千島関係資料』(全4巻) 公刊の意義について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ポストーク	6. 最初と最後の頁 12-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒岩幸子	4. 巻 62
2. 論文標題 知られざるユーラシア 中露国境を旅する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユーラシア研究	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山大将	4. 巻 26
2. 論文標題 現代東アジアにおいて トランスナショナル を問うことの意義：日本移民学会編『日本人と海外移住』を起点にして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 移民研究年報	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内 勇津流 , 及川 琢英	4. 巻 31
2. 論文標題 立花小一郎回顧余録(3)大正9年5-7月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 50-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川琢英	4. 巻 32
2. 論文標題 満洲国軍満系下級軍官の「対日協力」：『轍印深深 一个偽満軍官の日記』を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jonathan Bull and Steven Ivings	4. 巻 31 (3)
2. 論文標題 Return on display: memories of post-colonial migration at Maizuru	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan Forum	6. 最初と最後の頁 336-357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09555803.2018.1544583	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jonathan Bull	4. 巻 13
2. 論文標題 近年の英語圏のサハリン/樺太史研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 159-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流、及川琢英	4. 巻 31
2. 論文標題 立花小一郎回顧余禄(二)大正8 (1919) 年12月~9 (1920) 年4月(翻刻)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会Newsletter	6. 最初と最後の頁 43-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 31
2. 論文標題 ロシア・ソ連の史料・文献に見るソ連の南サハリン統治(1945~1950)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 90-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤隆夫	4. 巻 31
2. 論文標題 朝鮮北部におけるソ連進駐 日本窒素肥料(興南)の事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 91-92
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田淵陽子(TABUCHI Yoko)	4. 巻 2019
2. 論文標題 Searching for ashes: The repatriation of war dead and Japan-Mongolian relations	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ROLE OF GRASSROOTS DIPLOMACY IN POST-WAR MONGOLIA-JAPANESE RELATIONS: PAST, PRESENT, FUTURE.	6. 最初と最後の頁 143 - 149
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木理史	4. 巻 69(3)
2. 論文標題 「満洲国」期の鉱工業と満鉄の貨物輸送	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 20-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三木理史	4. 巻 85(2)
2. 論文標題 「満洲国」期における満鉄旅客輸送	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 73-96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白木沢旭児	4. 巻 31
2. 論文標題 問題提起：日本帝国の崩壊とソ連による占領	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yaroslav Shulatov, Stuart Goldman,	4. 巻 33(6)
2. 論文標題 The Fanatical Colonel Tsuji: A Japanese military mastermind with a dark side	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 World War II	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yaroslav A. Shulatov	4. 巻 2019-4
2. 論文標題 Russia as a "Trauma": The Rise and Fall of Japan as a Great Power	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Russia in Global Affairs	6. 最初と最後の頁 78-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山大将	4. 巻 13
2. 論文標題 中国語圏におけるサハリン樺太史研究：庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 165-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山大将	4. 巻 13
2. 論文標題 サハリンノ樺太史研究DB(データベース)について:個人作成資料目録の統合と活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 171-173
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山大将	4. 巻 31
2. 論文標題 境界地域史研究資料統合活用計画:研究者個々人が作成した未公開の資料目録の活用に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山大将	4. 巻 11
2. 論文標題 樺太のエスニック・マイノリティと農林資源:日本領サハリン島南部多数エスニック社会の農業社会史研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道・東北史研究	6. 最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山大将、竹野学、木村由美、ブルジョナサン、パイチャゼ、スヴェトラナ	4. 巻 11
2. 論文標題 樺太の戦後史研究の到達点と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道・東北史研究	6. 最初と最後の頁 108-119
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 BULL, Jonathan	4. 巻 53(4)
2. 論文標題 Karafuto Repatriates and the Work of the Hakodate Regional Repatriation Centre, 1945-50	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary History	6. 最初と最後の頁 788-810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 BULL, Jonathan	4. 巻 11
2. 論文標題 Border Tourism and modes of commemoration	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kyushu University Border Studies Border Bites	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 BULL, Jonathan	4. 巻 1
2. 論文標題 Comparing museum displays on Post-Second World War forced migration in Germany and Japan: Reflections on November 2018 research trip	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 National History and Collective Memory Project	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョナサン・ブル (白木沢旭児訳)	4. 巻 12
2. 論文標題 樺太引揚と函館引揚援護局の役割 1945-50	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 123-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 セルゲイ・イリッチ・クズネツォフ (兎内勇津流訳)	4. 巻 12
2. 論文標題 モンゴルにおける日本人抑留者 1945-1947年	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 155-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 兎内勇津流	4. 巻 880
2. 論文標題 シベリア「出兵」を問い直す	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兎内勇津流、及川琢英	4. 巻 30
2. 論文標題 立花小一郎とその日記について (資料紹介) , 立花小一郎回顧余録大正8年10-11月 (翻刻)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会Newsletter	6. 最初と最後の頁 38-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒岩幸子	4. 巻 35
2. 論文標題 第二次世界大戦期の千島列島の日本軍	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ポストーク (NPO法人ロシア極東研)	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒岩幸子	4. 巻 1212
2. 論文標題 太平洋戦争と千島列島	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊金曜日	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒岩幸子	4. 巻 1219
2. 論文標題 千島の歴史を知る、国境で分断された千島Q&A	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊金曜日	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山大将	4. 巻 29
2. 論文標題 中華民国および中華人民共和国におけるサハリン樺太史研究：台湾と大陸における庫頁島中国固有領土論の系譜	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会News Letter	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兔内勇津流	4. 巻 99
2. 論文標題 第二次世界大戦期サハリン周辺海域の航行問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 発表者名 田淵陽子
2. 発表標題 1945年モンゴル人民共和国国民投票に関する史料について。(モンゴル語で発表)
3. 学会等名 国民投票1945－史料と研究－国際学術シンポジウム(モンゴル国科学アカデミー、中央アルヒーフ主催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 境界変動による戦勝国民の不本意な帰国：第二次世界大戦後の住民移動の中の在南サハリン中華民国人
3. 学会等名 The 3rd International Conference on The Northeast Asian Sea Region and Humanities Networks, organized by Pukyong National University Humanities Korea Plus Research Group
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 及川琢英
2. 発表標題 満洲国軍の創設・発展・崩壊
3. 学会等名 近現代東北アジア地域史研究会第30回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒岩幸子
2. 発表標題 日口領土問題における千島の戦争とその記憶
3. 学会等名 日本ロシア文学会東北支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 及川琢英
2. 発表標題 満系軍官の日記・回想録にみる満洲国軍とその崩壊
3. 学会等名 日本植民地研究会 第27回全国研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野尚樹
2. 発表標題 ロシアの西端と東端：サハリンからカーリーニングラードをみる
3. 学会等名 山形大学歴史・地理・人類学研究会第21回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野尚樹
2. 発表標題 北東アジアにおける市民社会とエンパワーメント
3. 学会等名 北東アジアをめぐる日韓の対話：平和、安全保障、エンパワーメント（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白木沢旭児
2. 発表標題 日本帝国の崩壊過程：ソ連要因を中心に
3. 学会等名 国際フォーラム「2・8独立宣言100周年、日韓未来100年と南北協力のための政策提案フォーラム：日韓歴史葛藤の原点、植民地支配責任に対する考察」主催：植民と冷戦研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤聖文
2. 発表標題 -
3. 学会等名 (国際学会) (1939 .): (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yaroslav Shulatov
2. 発表標題 Koreans in Russian Empire: Diaspora and Geopolitical Dynamics
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 Border Shifting and People in Russo-Japanese Borderlands: Sakhalin/Karafuto and Kuril/Chishima
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: Concepts and Approaches, Opening Conference, Competing Imperialisms Research Network (CIRN1), (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 現代東アジアにおいて トランスナショナル を問うことの意義：『日本人と海外移住』を起点にして
3. 学会等名 日本移民学会2019年度大会シンポジウム「移民とランスナショナル、日本における移民研究の再考」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 境界地域史研究資料統合活用計画：歴史研究者自身による個人目録のデータベース化とWeb公開
3. 学会等名 第27回日本植民地研究会全国研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 住民から見た日本領樺太の形成と解体
3. 学会等名 国際フォーラム「2・8独立宣言100周年、日韓未来100年と南北協力のための政策提案フォーラム：日韓歴史葛藤の原点、植民地支配責任に対する考察」主催：植民と冷戦研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 Experimental Activities of SCES and Private Companies: A Comparison with Taiwan and Hokkaido under the Japanese Empire
3. 学会等名 The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2019)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 戦後サハリンにおける旧樺太住民慰霊碑等の建立史研究：樺太移民社会をめぐる複数の記憶と戦後
3. 学会等名 日本移民学会第28回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 中国語圏におけるサハリン樺太史研究：庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地
3. 学会等名 サハリン・樺太史研究会10周年シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 サハリンノ樺太史研究DB（データベース）について：個人作成資料目録の統合と活用
3. 学会等名 サハリン・樺太史研究会10周年シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三木理史
2. 発表標題 「裏日本」論と東北論再考 海からみた近代東北地方の港湾と鉄道
3. 学会等名 第61回歴史地理学会大会（シンポジウム報告）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三木理史
2. 発表標題 「満洲国」期における満鉄旅客輸送理史
3. 学会等名 社会経済史学会第87回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒岩幸子
2. 発表標題 第二次世界大戦期の千島列島の日本軍
3. 学会等名 サハリン・樺太史研究会第49回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 BULL, Jonathan
2. 発表標題 Recent work in the English language historiography of Sakhalin/Karafuto
3. 学会等名 サハリン・樺太史研究会10周年シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 BULL, Jonathan
2. 発表標題 Displaying post-colonial migration at museums in Japan
3. 学会等名 4th Biennial Conference of Association for Critical Heritage Studies(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 BULL, Jonathan
2. 発表標題 The legacy of reverse migration in Postwar Japan
3. 学会等名 Hokkaido Workshop on Immigration Policy and Border Security in Japan organised by the Jean Monnet Network, Borders in Globalization
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 BULL, Jonathan
2. 発表標題 Karafuto Repatriates and 1950s Hokkaido
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 ロシア・ソ連の史料・文献に見るソ連の南サハリン統治 (1945-1950)
3. 学会等名 日本植民地研究会第26回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 ヴァシーリー・ボルディレフと日本軍
3. 学会等名 ロシア史研究会第62回大会パネル「新史料から見直すシベリア出兵」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ya. Shulatov
2. 発表標題 The Battle On Imperial Ruins: the USSR, USA and Japanese War Criminals
3. 学会等名 Association for Asian Studies PANEL: "Russia on My Mind: Imperial Japan and Soviet Russia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤聖文
2. 発表標題 日本国内の植民地関連資料 - 地方における現状と課題
3. 学会等名 韓国国史編纂委員会専門家招請講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Yuasa
2. 発表標題 Regional Concepts in Japan's Foreign and Security Policy
3. 学会等名 Annual Convention of International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤隆夫
2. 発表標題 朝鮮北部におけるソ連進駐 日本窒素肥料（興南）の事例を中心に
3. 学会等名 日本植民地研究会第26回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井幸康
2. 発表標題 モンゴルにおける日本人抑留
3. 学会等名 日本植民地研究会第26回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白木沢旭児
2. 発表標題 共通論題「日本帝国の崩壊とソ連による占領」問題提起
3. 学会等名 日本植民地研究会第26回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白木沢旭児
2. 発表標題 書評：藤村建雄著『知られざる本土決戦 南樺太終戦史 日本領南樺太十七日間の戦争』
3. 学会等名 サハリン・樺太歴史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jonathan Bull
2. 発表標題 「大日本帝国から再考するポスト帝国時代の人口移動：サハリン（樺太）から北海道への引揚げを中心に」
3. 学会等名 第46回国際総合日本学ネットワーク（GJS）セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jonathan Bull
2. 発表標題 Settling the unsettled: history and memory in the construction of the Karafuto repatriate
3. 学会等名 20th Century Japan Research Award Lecture（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jonathan Bull
2. 発表標題 Weaponizing the loss: Settling the unsettled in Karafuto repatriate narratives
3. 学会等名 15th European Association of Japanese Studies (EAJS) International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 湯浅剛
2. 発表標題 ユーラシア国際関係におけるエネルギー・ファクター
3. 学会等名 日本国際政治学会2017年度研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 近現代東アジア境界地域における残留現象の比較相關研究
3. 学会等名 日本移民学会第27回年次大会自由論題報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山大将
2. 発表標題 東アジアにおける境界変動と人口移動の中の日本人引揚げの位置
3. 学会等名 日本移民学会第27回年次大会パネル報告「引揚研究の可能性を探る：今泉裕美子ほか編（2016）『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』を手掛かりに」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤聖文
2. 発表標題 日中戦争と関東軍 - 対ソ軍事バランスの崩壊
3. 学会等名 国際学術検討会 “ 邁向和解之路-中日戦争的再検討 ” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤聖文
2. 発表標題 ソ連軍の満洲進攻と関東軍
3. 学会等名 日本国際政治学会2017年度研究大会日本外交史分科会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 (兔内勇津流)
2. 発表標題 1920 (コルチャーク体制崩壊と日本のシベリア出兵政策の転換)
3. 学会等名 《 》 (国際学術会議「大ロシア革命と極東」) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 ニコラエフスク事件 (1920年) 再考
3. 学会等名 はこだて外国人居留地研究会札幌会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 V. Romanova (presentation), Ya. Shulatov (chair)
2. 発表標題 The Khabarovsk Trials of 1949 and the Cold War Diplomacy
3. 学会等名 ロシア史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ya. Shulatov
2. 発表標題 ROUNDTABLE: From Friends To Foes - A Path To The Cold War In East Asia
3. 学会等名 Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies (ASEEES) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ya. Shulatov
2. 発表標題 Rescued in Siberia: The US Airmen at the Soviet Far East at ROUNDTABLE: From Friends To Foes - A Path To The Cold War In East Asia
3. 学会等名 Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies (ASEEES) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 兔内勇津流
2. 発表標題 1920年4月4-5日沿海州武力衝突事件をめぐる
3. 学会等名 第三回シベリア出兵史研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 ニコライ・ヴィシネフスキー著、小山内道子訳、白木沢旭児解説	4. 発行年 2020年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 137
3. 書名 樺太における日ソ戦争の終結 知取協定	

1. 著者名 加藤聖文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 海外引揚の研究: 忘却された「大日本帝国」	

1. 著者名 黒岩幸子(監修・解説)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 2000
3. 書名 北海道立文書館所蔵 戦後千島関連資料(全4巻)	

1. 著者名 及川琢英	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 292
3. 書名 帝国日本の大陸政策と満洲国軍	

1. 著者名 加藤聖文	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 306
3. 書名 満鉄全史（講談社学術文庫版）	

1. 著者名 中山大将	4. 発行年 2019年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 117
3. 書名 国境は誰のためにある？：境界地域サハリン・樺太	

1. 著者名 小都晶子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 243
3. 書名 「満洲国」の日本人移民政策	

1. 著者名 Yaroslav A. Shulatov	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 627
3. 書名 A History of Russo-Japanese Relations: Over Two Centuries of Cooperation and Competition, Dmitri V. Streltsov, and Shimotomai Nobuo (eds.)	

1. 著者名 中山大将	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 425 (403-421)
3. 書名 響き合う東アジア史	

1. 著者名 中山大将	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国際書院	5. 総ページ数 389
3. 書名 サハリン残留日本人と戦後日本：樺太住民の境界地域史	

1. 著者名 内藤隆夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 358(189-216)
3. 書名 武田晴人・石井晋・池元有一編著『日本経済の構造と変遷』の「戦間期の石油産業の変化と独占の成立」を分担。	

1. 著者名 湯浅剛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 304(57-76)
3. 書名 宇山智彦、樋渡雅人編『現代中央アジア：政治・経済・社会』の「国際政治と安全保障：国際社会の変容との連動」を分担。	

1. 著者名 加藤聖文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会科学文献出版社	5. 総ページ数 461(442-461)
3. 書名 汪朝光主編『再認識と再評価 - 二戦中の中国と亞洲民族独立運動』の「満洲国」と蒙古独立 - 「五族協和」思想の矛盾」を分担	

1. 著者名 浅野豊美監修、葛尾村教育委員会編、堀川直子執筆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 福島県葛尾村	5. 総ページ数 222
3. 書名 葛尾村戦後開拓民のあゆみ	

1. 著者名 三木理史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 特定非営利活動法人おいなーれ柏原	5. 総ページ数 117(1-10)
3. 書名 榎谷政則編『河陽鉄道開通120年記念事業・記録集』の「明治の南河内と河陽鉄道」を分担	

1. 著者名 湯浅剛	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324(24)
3. 書名 『ロシア革命とソ連の世紀3 冷戦と平和共存』（松戸清裕編、「ポスト・ソ連空間と周辺世界冷戦終結から国際テロの時代の中で」を分担執筆）	

1. 著者名 井澗裕	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320(261-286)
3. 書名 『ロシア革命とソ連の世紀 第2巻 スターリニズムという文明』（松井康弘・中嶋毅編, 「9 日ソ戦争」を 分担執筆）	

1. 著者名 井澗裕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 361(240-274)
3. 書名 『帝国日本の移動と動員』（今西一・飯塚一幸編, 「第八章 明治大正期の樺太・サハリンにおける公娼と 半公娼」を分担執筆）	

1. 著者名 三木理史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 361(145-175)
3. 書名 『帝国日本の移動と動員』（今西一、飯塚一幸編著, 「満洲鉱業移民構想の成立と挫折 北票炭鉱と鶴岡 炭鉱の事例から 」を分担執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小都 晶子 (Ozu Akiko) (00533671)	摂南大学・外国語学部・講師 (34428)	
研究分担者	中山 大将 (Nakayama Taisyo) (00582834)	釧路公立大学・経済学部・准教授 (20102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井濶 裕 (Itani Hiroshi) (10419210)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・境界研究共同研究員 (10101)	
研究分担者	及川 琢英 (Oikawa Takuei) (30553036)	北海道大学・文学研究院・共同研究員 (10101)	
研究分担者	シュラトフ ヤロスラフ (shulatov Yaroslav) (30726807)	神戸大学・国際文化学研究所・准教授 (14501)	
研究分担者	中村 陽子(田淵陽子) (Nakamura Yoko) (40436176)	東北学院大学・アジア流域文化研究所・その他 (31302)	
研究分担者	兎内 勇津流 (Tonai Yuzuru) (50271672)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授 (10101)	
研究分担者	三木 理史 (Miki Satofumi) (60239209)	奈良大学・文学部・教授 (34603)	
研究分担者	浅野 豊美 (Asano Toyomi) (60308244)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	内藤 隆夫 (Naito Takao) (60315744)	東京経済大学・経済学部・教授 (32649)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ブル ジョナサンエドワード (Bull Jonathan Edward) (60735736)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・講師 (10101)	
研究分担者	加藤 聖文 (Kato Kiyofumi) (70353414)	国文学研究資料館・研究部・准教授 (62608)	
研究分担者	黒岩 幸子 (Kuroiwa Yukiko) (80305317)	岩手県立大学・公私立大学の部局等・教授 (21201)	
研究分担者	荒井 幸康 (Arai Yukiyasu) (80419209)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・共同研究員 (10101)	
研究分担者	湯浅 剛 (Yuasa Takeshi) (80758748)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	
研究分担者	天野 尚樹 (Amano Naoki) (90647744)	山形大学・人文社会科学部・准教授 (11501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	生田 美智子 (Ikuta Michiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	富田 武 (Tomita Takeshi)		
研究協力者	原 暉之 (Hara Teruyuki)		
研究協力者	花田 智之 (Hanada Tomoyuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関